

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：大阪市立大学（総括責任者：荒川 哲男）

プロジェクトの概要

(1) 女性教員の積極採用及び積極昇任

男女共同参画の理念、国際化の理念に基づく、性別・国籍に関わらない優秀な人材の採用と上位職への積極昇任の促進

(2) 教育・研究環境の整備

産休・育休・介護制度等を利用する研究者に対する独自研究補助者・代替要員登録システムの開発

(3) 出産・育児環境の整備

附属病院等と連携した、病児・病後児保育室の拡充と、保育所や児童家族相談所の業務充実

(4) 学内の意識改革

「女性研究者支援室」が中心となった、全教職員対象の男女共同参画に関する意識調査やシンポジウム、セミナー・ワークショップ等の開催

(5) 地域への貢献

小・中・高等学校への出前講座等や防災教育・研究の実施

(6) キャリアパス他

学部生・大学院生に対するサポートシステムの構築

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長のリーダーシップの下、副学長を室長とする「女性研究者支援室」及び同室内に設置された部局教員からなる運営委員会がよく機能し、機関の状況を勘案した適切な制度設計を行い、機関全体として学内の意識改革、女性教員の採用や昇任、女性研究者のネットワーク構築に取り組むとともに、教員人事方針に基づき、女性教員の在籍比率が特に低い理系部局で学長裁量経費を用いて教員の女性限定公募を実施し、一定の成果を挙げたことは評価できる。今後も、優れた女性教員の採用を積極的に進め、女性教員比率の更なる上昇、女性教授数の増加に繋げることを期待する。

- ・ **目標達成度**：女性教員の採用比率、女性准教授の在籍比率は目標を達成したが、女性教員の在籍比率、女性教授の在籍比率に係る目標は達成できておらず、女性教員の昇任を伴う他機関への転出が続いたとはいえ、目標達成度は不十分と言わざるを得ない。今後は、ポジティブ・ア

クシヨンの継続により、未達の目標が早期に達成されることを期待する。

- **取組**：女性教員の採用・昇任に関するインセンティブ経費の付与や、教員の女性限定公募の実施といったポジティブ・アクションの実施、学長及び副学長による全部局長へのヒアリング調査等、機関執行部による主体的な取組は評価できる。さらに、大阪府の女性研究者を繋ぐネットワークシステムの構築、女性研究者表彰制度の設立、病児保育室利用制度の拡充等、特色ある取組は評価できる。
- **取組の成果**：教員の女性限定公募の実施により、理系分野6名を含む9名の女性教員が採用され、優秀な女性研究者が確保されたことは評価できる。さらに、研究支援員の配置支援を受けたライフイベント中の女性研究者の研究業績の向上、女性研究者を対象とする表彰制度による優れた女性研究者の機関内外への周知といった成果が上がったことも評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、副学長を室長とする「女性研究者支援室」がよく機能し、機関全体として学内の意識改革、女性教員の採用や昇任の推進等に取り組んだことは評価できる。また、学長自らが副学長とともに全部局長へのヒアリング調査を実施するなど、本事業に対する学長の強いコミットメントは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は、法人運営本部に副理事長をトップとする「ダイバーシティ推進センター」を新設し、本センターの下、「女性研究者支援室」と関連部局が連携し、これまでの取組を継続、発展させる実施体制を整備しており、事業実施のための十分な自主経費を確保し、また、他機関との地域連携を拡充していることは、評価できる。